

ジェントルマンシップとスポーツマンシップ

Gentleman-ship and Sportsman-ship

1K06B136

指導教員 主査 寒川恒夫先生

田邊 秀樹

副査 中竹竜二先生

この論文を通して、「ジェントルマンシップ・スポーツマンシップ」の素晴らしさと可能性を述べた。

【第1章】

私自身がどうしてこの「ジェントルマンシップ・スポーツマンシップ」という題を取り上げたのかということと、この題についての私の予想と考察を書く。

【第2章】

「ジェントルマンシップ・スポーツマンシップ」の意味とそれらの違いについて述べ、「ジェントルマンシップ・スポーツマンシップ」の競技にもたらす効果について述べる。この章の中で例として「愛鷹ラグビーフットボールクラブ」「花巻東、菊池雄星選手」「サッカー、中田英寿選手」「柔道、ラシュワン選手」を用いた。

【第3章】

様々なスポーツマンの例をとりあげさらに考察を深めていく。とりあげた例の説明をしたいと思う。桑田選手の例では、桑田選手が学生の頃に行っている草むしりやトイレ掃除等を「ジェントルマンシップ」として考え、桑田選手が早稲田大学ラグビー蹴球部を訪問して下さったときに伝えられた「見えない力」のことについてなど、これもまた桑田選手の実績をも例に載せながら、それらの関連性について述べる。また、桑田氏には自身には「ジェントルマンシップ」と「見えない力」がどのように作用

していたかを考察する。次に、石川遼選手と亀田兄弟のという同年代の若いトップスポーツ選手であるがスタイルの全く違う選手の「ジェントルマンシップ」について例をあげ比較する。石川遼選手は、あれだけ、世間一般の方々やメディアの方々から愛される選手は素晴らしいと思い私の尊敬する選手として、例に挙げさせてもらった。続いての亀田選手の例は「ジェントルマンシップ・スポーツマンシップ」の反例としてあげさせてもらった。そして、この2人を比較することで「ジェントルマンシップ」の効果をより明確にし、「ジェントルマンシップ」というのはどれほど重要なものなのかを考察する。

【第4章】

第1章～第3章までは「ジェントルマンシップ」の形式的なことや・効果・重要性などについての肯定的な意見を述べるが、第4章では「ジェントルマンシップ」の今後の課題について簡単に考察する。

【第5章】

まとめであるが、ここでこれまでに述べた私の考えや載せた例などをもとにこの論文を総括した意見を述べる。スポーツというのは、社会の一部である。なぜなら、スポーツには経済効果などといった社会と絡む要素が多くあるからである。スポーツが社会の一部である以上、スポーツマンは観ている人々に不快感を与えるような反則や暴言などは決して言うてはならないと私は考える。つまり、スポーツマンである以

上は「ジェントルマンシップ・スポーツマンシップ」に徹すべきである。そして「ジェントルマンシップ・スポーツマンシップ」は必ず「見えない力」となってプレーに影響する。このことは、第1～3章を見れば理解できるはずである。日本のスポーツ界が将来、明るいものとなるように、「ジェントルマンシップ・スポーツマンシップ」の先駆けと早稲田ラグビーがなれるようにこれからも日々努力していこうと思う。